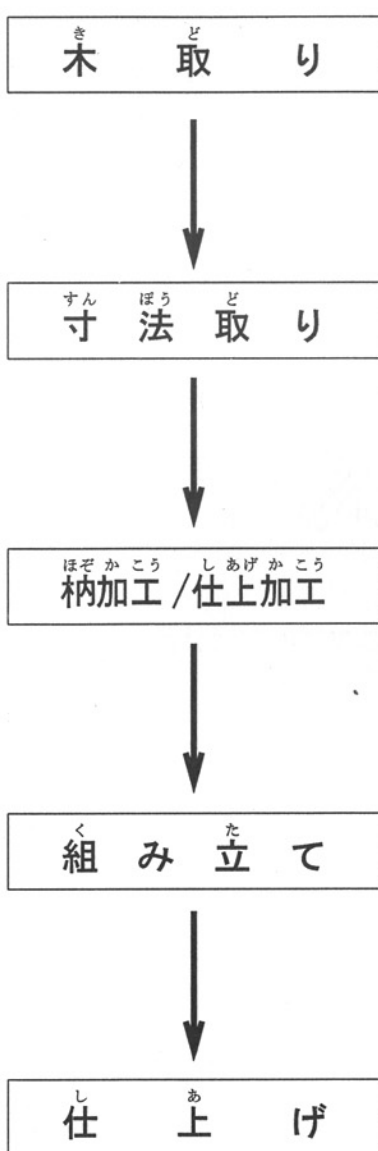


建具の製造工程



建具は、木地をそのまま使うことが多いため、材料選びで決まるといわれています。出来るだけきれいな柂目を使うことが基本です。そして、その技量を発揮するのが、枘加工と組子加工の部分です。こればかりは、職人の「勘」が頼りであり、経験を重ねるほかりません。

寸法取り

←

←

框や内部の棧の加工のため、正確に寸法を計り、加工する部分に印をつける。

木取り

←

←

框や内部の棧を作るため、十分に乾燥した板材を、必要な寸法に切り取る。

組み立て

←

←

框や棧、組子などそれぞれを組み立て、完成した形に組み上げる。特に組子の場合、材料を薄くするほど木の癖や反りが出てくるので、材料の選定からどの部分を取るかといったことが技術として要求される。複雑なものは、図面を描いて加工の角度を正確に図って製作する。まず、組子を組み立て、框にピッタリと納まるように調整しながら外枠を組み立てる。

枘加工/仕上加工

←

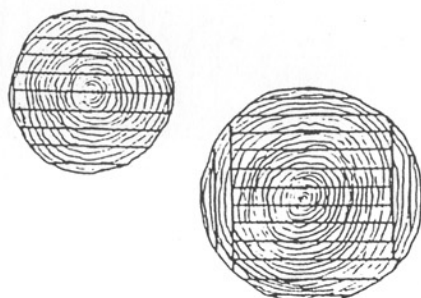
←

框や棧、組子を組み合わせるための凹凸の枘を、部材に合わせて加工する。カンナで表面をなめらかに仕上げ、部材の厚みをそろえたり、装飾加工をする。

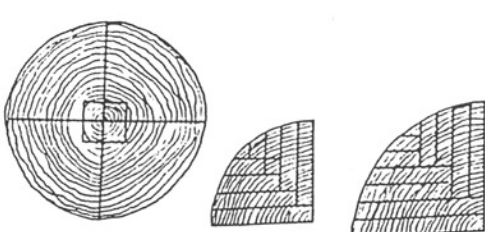
木割り

昔から、丸太より材料を取る方法として、次のような木割り術が伝えられています。

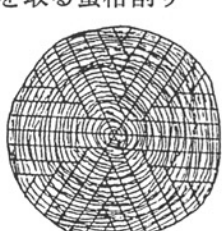
①板目を取るズバ挽き



②柂目を取る木割り



③本柂を取る蜜柑割り



仕上げ

←

←

最終仕上げとして、凹凸の部分をカンナで削りそろえるほか、組み上げた建具に障子紙を貼ったり、金具の取りつけや塗装をほどこす。塗装は主に襖の框を黒塗りする。障子やガラス戸などは、無塗装の場合が多い。